

八戸市における中心市街地活性化基本計画実施の効果の検証

岩手大学 学生会員 ○関川陽介
岩手大学 正会員 平井寛
岩手大学 正会員 南正昭

1. 背景

八戸市において、平成2年頃から相次いだ郊外商業施設の新設や大型店等の市街地からの撤退等により、中心市街地の居住人口、歩行者通行量の減少といった中心市街地の衰退が進んでいた。そこで第1期中心市街地活性化基本計画(以下第1期計画)が実施され、2年程で上記の衰退傾向が改善する効果が現れ始めたことと第2期計画には記載されている。しかし計画実施から実際に効果が現れたという事実の、データによる検証が十分でない。

2. 目的

第1期中心市街地活性化基本計画と関連文献を整理し、八戸市の平成18年度から平成26年度の地区町内ごとの人口データ等を地理情報システムを用いて地図上に表す。さらに、第1期計画の前後における市街地での人口の推移、移動の傾向が第1期計画の効果であるのかを定量的に確認する事を本研究での目的とする。

3. 八戸市における中心市街地活性化基本計画の概要

本計画書によると、平成20年頃、八戸市中心市街地では、居住人口、事業所数、従業者数の減少および市全体に対する中心市街地の商業シェアの縮小を問題として抱えており、その原因の一つである核的商業施設の撤退、郊外商業施設の立地によって、集客力も低下し衰退に拍車がかかっていた。また、観光入込み客の多くが祭りに集中している一方、商店街でのイベントは観光集客にはあまり結びついていない。しかし中心市街地から出る公共交通、特にバス交通は全市をカバーするほど充実しているため、活性化の重要な要素である。

これらの現状を踏まえて、「来街者を増やす」、「定住

を促進する」を目標に設定し、平成20年7月から平成25年3月の4年9か月を計画期間として、八戸市の第1期計画は掲げられた。

4. 研究方法

(1) 八戸市中心市街地における人口の推移

八戸市の地区町内の位置データを、地理情報システムである ArcGIS (以下 GIS) 上に表示させるために、東京大学情報科学研究センターより提供されている CSV アドレスマッチングサービスを利用し、各地域の住所を緯度、経度の値に変換することにより実現した。この位置データに八戸市のホームページより得られた町内地域別の毎月住民基本台帳世帯・人口集計表の「地区毎町内毎の人口と世帯数一覧表」の人口データを追加し中心市街地での人口分布の変化を見た。

(2) 文献調査

八戸市の中心市街地活性化についての取り組みを把握するため、またその取り組みの達成状況を把握するため、第1期中心市街地活性化基本計画書と、そのフォローアップに関する報告から、本計画の目標に貢献した代表的な事業の概要とその事業における目標達成状況を整理した。

5. 結果と考察

第1期計画実施前である平成18年4月と実施後である平成26年4月における八戸市中心市街地の人口分布をそれぞれ図1に示し、これら2時点間における人口の差を図2に示した。このとき各点の毎年の人口データは減少傾向にあったため最初と最後である平成18年4月と平成26年4月のデータを用いて図を作成した。

図1において、各図中央に位置する番町においては8年の間に人口が200人以上増加している。これは、

キーワード: 八戸市、中心市街地活性化基本計画

連絡先: 岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 電話:019-621-6453 FAX:019-621-6460

第1期計画での人口・世帯減少に対する事業の一つである借上市営住宅整備事業が、この番町で行われていたことの影響が大きい物であると考えられる。平成23年に整備を終えているこの住宅では、平成25年6月の最終フォローアップ時点で全50戸に120人が入居している。

また、八戸市全体のこの8年の人口変化を見ていったとき、市全体では毎年減少しており、減少傾向にあると言える。しかし、地域によっては増加しているところもあり、西白山台地域において1516人、周辺の東、南白山台においても328人、293人の人口増加が見られている。この白山台地域では昭和53年よりニュータウンの建設が進められており、平成19年に西白山台に中学校が立地したことで、1戸あたりの世帯人員数の多い家族世帯がニュータウンに移り住みこの人口増加につながった可能性が考えられる。

次に、第1期計画の中でも目標達成に貢献した代表的な事業について本計画の最終フォローアップに関する報告から表1に示して整理した。

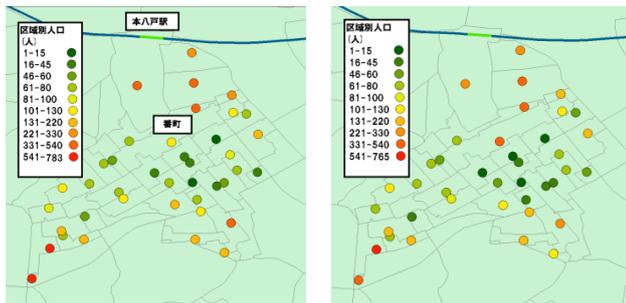


図1 八戸市中心市街地における人口分布(H18. 4, H26. 4)

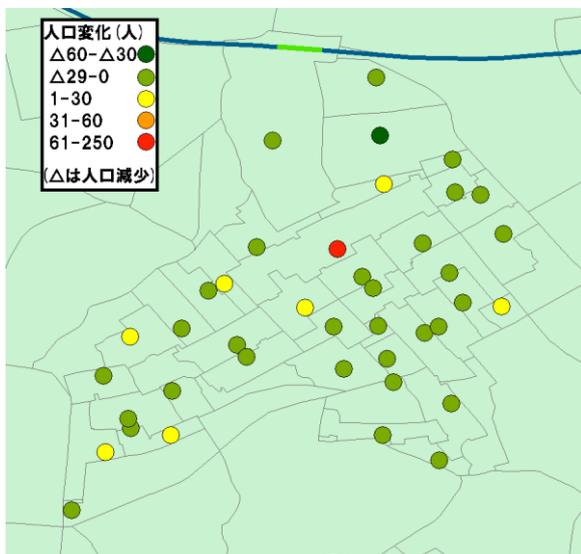


図2 2時点間の人口の差

表1 第1期計画の代表的事業と達成状況(H25. 6)

目標	系統	事業名	達成状況	目標値	最新値
来街者を増やす	都市機能集積 公共公益サービス 観光	八戸市中心街 地域観光交流 施設整備	目標未達成	5210人増	3700人増
	商業・にぎわい	はちのへホコテ ン事業	目標達成	1500人増	1500人を 上回る
定住を促進する	人口・世帯	借上市営住宅 整備事業	目標未達成	140人	120人
		分譲マンション 新築事業	目標未達成	240人	119人
		中心市街地まち なか住宅取得 支援事業	目標未達成	112人	68人

文化・芸術活動や観光を目的とした八戸市中心市街地地域観光交流施設(はっち)整備事業では、当初の来館者数の目標65万人を大きく上回る85万人が訪れ、市街地の活性化に寄与している。しかし、この施設から離れるほどに歩行者通行量は減少しており効果は限定的であったため目標未達成であった。

八戸ホコテン事業は市街地のメインストリートを交通規制して催す商店街イベントであり、市民の参加しやすさを重視したために市民に定着して目標を超える来街者数となった。

人口・世帯減少対策事業では、市営住宅のように50戸の部屋全てが埋まっている場合でも目標人数を達成できていなかった。これは1戸あたりの世帯人員数が想定より低かったためである。

6. おわりに

中心市街地に住宅を増やした結果として、市外地の人口推移を八戸市の住民基本台帳世帯・人口集計表の「地区毎町内毎の人口と世帯数一覧表」を用いて町内別で半年ごとに見たところ、局所的な人口増加が見込まれることが分かった。しかし、1世帯当たりの人数が少なかったことにより、想定していた増加人口を下回ってしまった。したがって、今後八戸市には1戸の世帯人員数の多い家族世帯や多世代世帯を中心市街地定住に導く事業が必要になってくると考えられる。

参考文献

- 1)八戸市役所:「第1期八戸市中心市街地活性化基本計画」, 2008
- 2)八戸市役所:「認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告」, 2013
- 3)八戸市-八戸市人口データ(平成26年度)
<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/8,70827,35,463,html>